

# 茶の凍霜害対策について

環境農業推進課

## 1. 茶の凍霜害予防対策

### 1) 送風法（防霜ファン）

高所の暖かい空気と地表近くの冷たい空気を混合し、葉温を上げる。

### 2) 散水氷結法（スプリンクラー）

葉株面に付着した水を氷結（潜熱放出）させ、0℃前後に保ち被害回避。

### 3) 被覆法（寒冷紗や不織布等）

資材で茶樹を覆い凍霜害を防ぐ。

### 4) 秋整枝（10月上旬に実施）

整枝時期を10月下旬まで遅らせて、一番茶の萌芽、摘採時期を遅らせる。

## 2. 被害発生後の対策技術

### 1) 被害後の整枝処理

目的：摘採した生葉の中に被害葉が混入することを防ぐ。

整枝条件：平均して2葉期～4葉期である場合、被害部を除く程度に軽く整枝する。

※萌芽期～2葉期葉未満であれば、基本的には被害の程度に関わらずそのまま放置。

被害が甚大である場合は、刈り捨てて二番茶に期待。

### 2) 病虫害防除

虫害の発生：カンザワハダニ（体長約0.4mm）寄生による葉の養分吸汁加害。

増殖理由：摘採時期が遅れ、霜害で残った葉に集中的に加害する。

※降雨の少ない乾燥条件で増殖。

要防除水準：摘採面の成葉（古い葉の裏側）に5%（20枚中1枚以上）雌成虫が確認された場合。

防除時期：密度が高い場合は農薬の使用基準を厳守し、早急に実施。

### 3) 施肥（春肥、芽出肥）

条件：被害が甚大で摘採が大幅に遅れると判断される場合。

施用時期：萌芽期直前に速効性肥料を土壌混和する。春肥と合わせた施肥量は年間窒素量（約50kg/10a成分）の3割程度。すでに施肥していれば不要。